

自由が丘産能短期大学 社会に出たときの 実務能力の基礎構築に最適な マイクロソフト認定資格

ビジネス実務の専門知識や、実践の場において技能を発揮できる人材の育成に力を入れる自由が丘産能短期大学。

同校では、2007年度にマイクロソフト認定資格（Excel®）を推奨資格として導入したところ、多数の学生が興味を示し、2008年には入学者の半数近くが登場するほどまでに対策講座の受講者数が増加。こうした取り組みについて、能率科経営情報コースの主任を務める豊田雄彦教授にお聞きしました。

2007年にマイクロソフト認定資格を導入 —Excelの技能を測るツールとして

自由が丘産能短期大学は、実務教育を重視した国内トップクラスのビジネス系短大。実社会において「結果が出せる人材」「知識・技能が活かせる人材」の育成を目指し、高い就職率を誇っています。

教育課程としては、昼間履修する産能科第Ⅰ部と夜間の第Ⅱ部、通信教育課程があり、第Ⅰ部はビジネスマネジメントコース、秘書コース、観光・国際コース、医療・情報サービスコース、メディアデザインコース、経営情報コースの6コース、第Ⅱ部はベーシックマネジメントコース、ビジネススキルアップコース、キャリア・コミュニケーションコース、パソコンスキルアップコースの4コースを設けています。

同校では、社会のニーズに伴い、10年以上前からコンピュータ・リテラシー教育に力を注いできました。現在、すべての教室にLANが完備されており、学生は全員ノート型パソコンを持ち込んで授業を受けています。授業では、全コース共通で「パソコンの基礎」「パソコンの活用と情報論理」「パソコン文章表現」などの必修・選択科目が用意され、卒業までには、WordやExcelなどの必須ソフトをある程度使いこなせるようになることが目標とされています。そんな自由が丘産能短期大学が、マイクロソフト認定資格を本格的に導入したのは2007年。経営情報コースの豊田雄彦教授は、導入の経緯を次のように説明します。

「Wordについては、以前から『日商PC検定（文章作成）』の取得を学生に勧めていましたが、Excelのほうは、特にそうした資格・検定を設定していなかったため、学生自身が目標を立てにくいという側面がありました。しばらく

『日商PC検定（データ活用）』を試してみたのですが、範囲が広くて学生が取り組みづらいという点が浮上してきました。そのような状況下、“Excelの技能だけをきちんと測れる資格はないか”と探したところ、それならマイクロソフト認定資格がよいだろうということになり、2007年度から導入したというわけです」

『Excelが使える』という証明に最適 —企業が学生の能力を測る目安にも

実務教育を重視する自由が丘産能短期大学では、各学生が目指す道に沿った資格の取得を強力にサポートしています。例えば、通常授業や特別講義で取得を支援している資格・検定試験の内容やスケジュールなどをまとめた『資格ガイドブック』を入学時に配布したり、各資格・検定に関する詳しい情報を提供するガイダンスも随時開催しています。さらには、こうした情報提供に加え、大学の授業のなかでも試験に直結したライセンス科目群を設けて資格取得を支援。20以上の資格・検定に対応した試験対策講座を実施しています。マイクロソフト認定資格[Microsoft® Office Specialist、Microsoft Certified Application Specialist（以下、MCAS）]の取得を目的とした科目も、このライセンス科目のなかに用意されています。

「特に、経営情報コースやメディアデザインコースなどの情報系コースでは、マイクロソフト認定資格のExcelの取得を勧めています。Excelは、どれくらい使えるかを説明しにくいアプリケーションソフトのようで、企業側が要求するレベルもさまざまです。入力さえできればいいという人もいれば、マクロが

『学びのサポート』のなかで、どのような資格を取得しておいた方が良い、という話も出てきます。当然、取得している先輩が多い資格は推奨されることが多いようで、勤めるほうも自信をもって言えるんだと思いますよ」（豊田教授）

応用力を身につけることを最終目標に —マイクロソフト認定資格で基礎を築く

“パソコンソフトを使いこなせること”と、“業務に関する知識を持っていること”。この2つが結びついてはじめて、パソコンを仕事に役立てることができると豊田教授は言います。経営情報コースでは、資格の取得をサポートしながら、実務的なデータ処理の方法を学び、最終的にはさまざまなビジネスシーンでパソコンのスキルを応用できる力を身につけることを目標にしています。

「実際の仕事の場面では、Excelにしても、職場の上司からきちんとした仕様書を渡されて『こういうワークシートを作ってください』と言われることはほとんどないですよ。ここでは、指示の意図をしっかりと汲んで、自分で考えをまとめる能力が重要になります。そのような点から、経営情報コースでは2年生になると、実社会に即したさまざまなケースを示しながら、パソコンソフトを応用していく授業を行っています。しかし、だからこそ、1年生の段階でしっかりと基礎を身につけておかなければならない。当校にとってマイクロソフト認定資格は、そのための明確な目標にもなっています」（豊田教授）



自由が丘の閑静な住宅街という恵まれた立地にあるキャンパス

使えなければExcelを使えるとは言えないという人もいます。しかし、資格を示せば、相手にも明確な水準がわかります。マイクロソフト認定資格は、企業側にもよく知られていますから、学生が面接で『Excelを使えます』という能力を客観的に伝えることのできる最適な資格だと思いますし、企業が学生の能力を測る目安にもなっているんだと思います」（豊田教授）

導入2年目に受講者数が大幅増加 —全学生の4割が試験対策講座に登録

導入初年度の2007年には、約70人がマイクロソフト認定資格の試験対策講座を受講し、そのうち58人が実際に受験しました。合格率は90%以上だったそうです。

「決して簡単な試験ではありませんが、きちんと準備した人は必ず合格しています。そういった意味では学生も頑張りがいがある。また、この試験は範囲がある程度はつきりしていますし、模擬試験が付いている対策教材もありますので、学習に取り組む学生にとっても成果が目に見えやすいんだと思います。資格取得のための道筋がわかりやすい試験で、そうした面も非常にいいなと感じています」（豊田教授）

また、2008年はMCASの試験対策講座に入っている授業を選択する学生が急増して180人を超えたとのこと。同校の1学年は400人ほどなので、全学生の約4割、前年の2倍以上の学生が受講したことになります。この受講生の大幅な増加の理由として、“先輩からの口コミが大きいのではないかと豊田教授は分析しています。というのも、自由が丘産能短期大学では、2年生が1年生に目標設定の仕方などを教える『学びのサポート』というユニークな科目があるからです。

「『学びのサポート』は、2年生から1年生への学びの支援や2年生同士の学習相互支援を行う科目で、2007年度からはじまりました。本学では、グループで課題に取り組むなかで、自分たちが気づいたことを学んでいく、いわゆる体験型の学習を重視しており、この『学びのサポート』もその一環です。学生同士の情報交換の場であるとともに、コミュニケーション能力を培う授業という役割も担っています。その

自由が丘産能短期大学 <http://www.sanno.ac.jp/tandai/>

所在地 東京都世田谷区等々力6-39-15
学生数 Ⅱ（入学生員、1学年） 能率科第1部380人、第2部120人、通信教育課程1500人

自由が丘産能短期大学は、実務教育を重視した国内有数のビジネス系短大。独自の教育システムで、ビジネス実務の専門知識・技能の習得、生涯教育（継続学習）の実践に取り組み、抜群の就職実績を誇る。学校法人産業能率大学は、「能率（マネジメント）」という考え方を広めた日本初のマネジメント・コンサルタントの上野陽一が、1925年に日本産業能率研究所を創立したのが始まり。現在は、自由が丘産能短期大学のほか、産業能率大学、大学院、総合研究所を擁している。



取材ご協力
自由が丘産能短期大学
能率科
教授 豊田 雄彦さん